平成３１年３月

各　位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成３１年３月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

日本最大級の朝市「館鼻岸壁朝市」が、今年は、３月１７日（日）に開幕します。
普段は何もない広大な岸壁に、毎週日曜日の早朝にだけ出現する巨大朝市・館鼻岸壁朝市。全長８００メートルにわたって３００以上の店が立ち並び、毎週数万人もの人出を誇ります。
食の宝庫であり、市民の社交の場でもある朝市は、早朝からにぎわいを見せる八戸の元気の源です。
みなさまも、八戸にお越しの際は少し早起きをして、朝を楽しむ八戸ならではのライフスタイルを体験してみませんか。

■館鼻岸壁朝市

開催日時　２０１９年：３月１７日～１２月の毎週日曜　　日の出～９：００頃
※GW、お盆、年末に臨時開催あり
※２０１９年５月１２日（日）うみねこマラソン開催日は休市予定
※朝市の詳細は、こちらのホームページをご覧ください。
https://hachinohe-kanko.com/10stories/asaichi/tatehanaganpeki-asaichi

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所
〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館５階
電話　(03) 3261-8973　／FAX　(03) 3239-6723
E-mail:　tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸レポート 3月号

平成31年2月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
（１）	「はっち」８周年記念セレモニー開催　～街活性化へ決意新た～
（２）	八戸市人口　４３年ぶりに２３万人を割る
（３）	八戸駅西地区 市が計画案公表　～未来図はスポーツシティ～
（４）	八戸西スマートIC　３月２３日１５時開通
（５）	青森県　創価大など４大学と連携協定を締結　UIJターン就職を後押し
（６）	市民のさかなは「イカ」　市制施行90周年記念事業の市民投票で決定
（７）	八戸駅西に公園整備　地区活性化へ事業強化
（８）	UIJターン促進に向け施策展開　移住者に最大１００万円助成
（９）	市制９０周年ロゴマーク決定　～波に乗って輝く未来へ～

【産業】

記事	概要
（１０）	八戸市民は“鶏の唐揚げ大好き？”　青森県の月消費量が全国１位
（１１）	スーパーよこまちの１０人が「まぐろコンシェルジュ」に認定

【地域】

記事	概要
（１２）	八高生　初のフィリピン語学研修
（１３）	木村友祐さんの「イサの氾濫」「聖地Cs」　英訳刊行へ
（１４）	NTTドコモ創作絵画コンクール　八戸文化幼稚園が学校賞受賞
（１５）	「津波の日の絆」　JAMSTEC職員が絵本を出版
（１６）	八戸市児童科学館で「プラ寝たリウム」　～満天の星眺め熟睡を～
（１７）	石田勝雄さん（八戸特派大使）　市に「薩摩琵琶」寄贈

【文化・スポーツ】

記事	概要
（１８）	男子新体操部出身者で構成「BLUE TOKYO」　八戸初公演で圧巻の演技
（１９）	総合格闘技「パンクラス」　“八戸発”プロ格闘家デビュー
（２０）	北国に春を呼ぶ「八戸えんぶり」　初日は過去最高の20万3千人
（２１）	長根リンク 半世紀の歴史に幕　～思い出 七色の銀盤に～

【行政】

記事	概要
（１）	**「はっち 」８周年記念セレモニー開催　～街活性化へ決意新た～** 三日町の「はっち」の開館8周年に合わせ、八戸市は2月11日、館内で記念セレモニーを開いた。セレモニーには中心街の関係者や市民ら約150人が節目を祝うとともに、中心街活性化や「はっち」の利用促進に向けて決意を新たにした。小林眞市長はあいさつで、「今後も市民が中心街に誇りを持ち、八戸全域が活力あふれる街になるよう取り組みを進めていきたい」と強調した。この日は、関連イベントとして、特別バンドによる演奏会や関係者らによるトークセッションなども開かれ、館内はお祝いムード一色となった。
（２）	**八戸市人口　４３年ぶりに２３万人を割る** 住民基本台帳に基づく八戸市の1月末現在の人口が22万9885人となり、23万人を割り込んだことが分かった。22万人台となるのは1976年以来、43年ぶり。死者数が出生者数を上回る自然減が顕著で、人口減少に歯止めがかからない現状が浮き彫りとなっている。市の人口は旧南郷村と合併した2005年の24万9530人をピークに年々減少している。市は現在、「市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、高齢者の健康増進や若者の定住を促す雇用創出、子育て環境の充実など各種事業を展開しており、2040年に人口19万3千人を維持するという目標に向け、総合的に対策に取り組む方針である。
（３）	**八戸駅西地区 市が計画案公表　～未来図はスポーツシティ～** 2028年度までの完了を目指す八戸駅西土地区画整理事業を巡り、八戸市は2月14日、駅西地区のまちづくり計画案を公表した。2020年春にオープン予定の「フラットアリーナ」を核として、スポーツ関連を中心にまちづくりを進める方針。計画案はスポーツをコンセプトとして、飲食や娯楽といった機能を地区内にコンパクトに集積させる「スマート・スポーツシティ」を掲げる。整備イメージでは、商業ゾーンに宿泊施設や飲食店の他、スポーツクラブや地場産品を販売する土産物店などを誘致することを想定する。今後、パブリックコメント（意見公募）などを実施し、本年度内に計画を取りまとめる予定。
（４）	**八戸西スマートIC　３月２３日１５時開通** 八戸自動車道の八戸ジャンクション(JCT)－八戸北インターチェンジ(IC)間に新設される「八戸西スマートIC」について、八戸市などは、3月23日午後3時に供用開始すると発表した。自動料金収受システム(ETC)搭載車限定とするスマートICの開通は青森県内で初めて。市道路建設課によると、開通により高速道路の利便性が増し、地域経済や観光産業の活性化をはじめ、医療体制の充実などが期待されるという。
（５）	**青森県　創価大など４大学と連携協定を締結　UIJターン就職を後押し** 青森県は2月18日、創価大、創価女子短大、中央大、神奈川大の4大学と、学生UIJターン就職に連携して取り組む協定を締結した。企業、生活に関する情報を学生に伝えて県内就職を後押しするほか、就活イベント開催やインターンシップでも協力。青森の次代を担う人材確保と地域活性化を目指す。県庁での協定締結式にて青山副知事は、「一人でも多くの学生が未来を担う人材として県内に戻ってくるよう、皆さんと全力で取り組みたい」と意欲を語った。県はこれまでに専修大、日本大など県外7大学と同様の協定を結んでおり、締結先は今回で11大学となった。

（６）	**市民のさかなは「イカ」 市制施行90周年記念事業の市民投票で決定** 市制施行90周年記念事業の一環として、八戸市が実施した「市民のさかな」を選ぶ市民投票で、イカが2位以下にダブルスコアに近い差をつけて最多得票を獲得し、「市民のさかな」として5月に制定されることが決まった。最近は不漁傾向だが、八戸が1972年から連続して水揚げ日本一を誇るイカの人気は絶大のよう。既に、毎月10日をイカの日と定めてPRイベントなどを展開しており、今後はこうした取り組みを一層強化する。市は八戸を支えてきた"海の恵み"を再認識しながら、その魅力を最大限アピールする考え。市民や関係団体も波及効果に期待を込める。
（７）	**八戸駅西に公園整備　地区活性化へ事業強化** 2020年春のオープンを目指し、八戸駅の西側に「フラットアリーナ」の建設が進むのに合わせ、八戸市は2019年度、駅西地区の活性化に向けた事業を強化する。アリーナを核としたまちづくりを展開し、施設の隣接地に公園を整備。産学官連携によるコーディネート組織「（仮称）アーバンデザインセンター八戸」の立ち上げ準備も進める。八戸の"玄関口"にふさわしいエリアとして、スポーツを通した交流促進やにぎわい創出につなげたい考えである。
（８）	**UIJターン促進に向け施策展開　移住者に最大１００万円助成** 八戸市は2019年度、UIJターン就職の促進に向けた移住支援施策を展開する。国が創設した移住・起業支援金制度の新事業に乗り出す他、2016年度から実施している「ほんのり温ったか八戸移住計画支援事業」を継続する方針である。国の移住・起業支援金制度は、地方創生推進交付金を活用。東京23区に5年以上在住または通勤する人が対象で、移住、就業に伴う経費として1世帯当たり最大100万円（単身者の場合は最大60万円）を助成。移住して起業すれば、1世帯で最大300万円（同260万円）を支給する。市産業労政課は「国の制度の対象外となる人を市の支援事業でフォローし、UIJターンを促進させたい」としている。
（９）	**市制９０周年ロゴマーク決定　～波に乗って輝く未来へ～** 八戸市は2月21日、市制施行90周年記念事業で活用するキャッチフレーズとロゴマークを発表した。キャッチフレーズは「歴史を紡ぎ90年　輝く未来へ　八戸市」。ロゴマークは八戸の海と波をモチーフに、波に乗って八戸が先へと進む姿を表現している。いずれも昨年11月に実施した市民投票で最多得票を獲得した作品に決めた。2019年度中、ポスターや記念グッズなどに使用する。

【産業】

記事	概要
（１０）	**八戸市民は"鶏の唐揚げ大好き？"　青森県の月消費量が全国１位** 近年、八戸市内では鶏の唐揚げの専門店や唐揚げを看板商品として扱う店が徐々に目立つようになってきた。昨年は全国チェーン2店舗が進出するなど、少なくとも市内に10店舗以上立地し、需要も伸びている。最近では朝市やイベントの期間限定で出す店も増えた。八戸を代表する観光スポットとなった国内最大級の館鼻岸壁朝市でも、大安食堂の手羽先の唐揚げ「しおてば」が大人気。昨年行われた大手冷凍食品会社「ニチレイフーズ」と日本唐揚協会による初の全国調査では、青森県が1カ月の鶏の唐揚げ消費量で全国トップというデータも出ている。
（１１）	**スーパーよこまちの１０人が「まぐろコンシェルジュ」に認定** 青森県南地方でスーパーを展開する「よこまち」（八戸市）の従業員10人が2月12日、マグロに関する専門知識を持つ「まぐろコンシェルジュ」に県内で初めて認定された。まぐろコンシェルジュは、「三崎マグロ」で有名な神奈川県三浦市三崎のマグロ卸売業「西松」が考案した認定資格。昨年11月に西松の専務が講師となり、よこまちの鮮魚バイヤーや各店舗の鮮魚部門担当者ら10人が受講。座学や調理実習を経て、修了試験に臨んだ全員が合格した。10人は"マグロ伝導師"として、買い物客にマグロを使った料理や調理方法などを提案し、適正な価値の発信と消費向上を目指す。

【地域】

記事	概要
（１２）	**八高生　初のフィリピン語学研修** 青森県立八戸高は、昨年12月14～23の10日間、フィリピンで語学研修を行った。八戸高の海外研修は本年度から始まり、2年生の生徒15人が参加した。現地では、語学学校「CNE1」で英語研修を積んだほか、現地の子どもたちと一緒にゲームをして交流を深めたり、地元のマーケットを訪れたりして、楽しみながら国際的な視野を養った。参加した生徒は「現地の人たちと触れ合い、自分の価値観が変わった」「自分の意見を英語で伝えることの楽しさを知った」と研修の成果を語った。
（１３）	**木村友祐さんの「イサの氾濫」「聖地Cs」　英訳刊行へ** 八戸市出身の作家木村友祐さんが東日本大震災後の東北地方に生きる人や動物の姿を描いた小説「イサの氾濫」と「聖地Cs」が英訳され、1冊にまとめられて米国・コロンビア大出版会から刊行された。英訳本は米国やインターネット通販サイト・アマゾンで販売されている。木村さんは日本文学の国際シンポジウムに招かれるなど、震災文学を世界に発信する一人としても注目されており、「震災の参考資料として読まれる以上の読者とのつながりが持てたらうれしい」と、作品に込めた思いが届くことを願っている。
（１４）	**NTTドコモ創作絵画コンクール　八戸文化幼稚園が学校賞受賞** NTTドコモ（東京）が開催した日本最大級の創作絵画コンクールで、八戸市の認定こども園八戸文化幼稚園が学校賞に輝いた。コンクールは、全国の3歳以上の未就学児童から中学生までを対象とした第17回「ドコモ未来ミュージアム」。全国から14万4180点の応募があり、119点を応募した八戸文化幼稚園は、各都道府県から1校ずつが選ばれる学校賞を受賞した。2月7日に、同幼稚園で表彰式が行われ、NTTドコモ青森支店長から表彰状と記念品が贈呈された。
（１５）	**「津波の日の絆」　JAMSTEC職員が絵本を出版** 東日本大震災の発生時、海洋研究開発機構(JAMSTEC)の地球深部探査船「ちきゅう」の船内で八戸市立中居林小の児童と一緒に過ごしたJAMSTEC職員の小俣珠乃さんが、当時の様子などを描いた絵本を出版する。タイトルは「津波の日の絆－地球深部探査船ちきゅうで過ごした子どもたち」。災害時の体験を子どもたちにも分かりやすく伝えることができる貴重な一冊。小俣さんは絵本を通じ、「力を合わせた思い出や絆が未来に引き継がれ、生かされたら」と願いを込める。3月上旬に全国の書店で販売される。
（１６）	**八戸市児童科学館で「プラ寝たリウム」　～満天の星眺め熟睡を～** 八戸市児童科学館では、プラネタリウムで星座について学びながら、睡眠もできるイベントが人気を集めている。その名も「熟睡プラ寝たリウム」。「薄暗い中で星を眺めると、つい、うとうとしてしまう」というプラネタリウムの“難点”を逆手に取った大人向けの企画。星座の投影中は、音声ナレーションの音量を極力下げ、星座の移動もゆっくりと行うなど、心地よい睡眠をサポート。口コミや会員制交流サイト(SNS)などにより、徐々にリピーターも増えており、新たな客層の獲得につなげている。

（１７）	**石田勝雄さん（八戸特派大使）　市に「薩摩琵琶」寄贈** 八戸市出身で東京都在住の琵琶製作修理技術者、石田勝雄さん(81)が2月22日、自らが制作した薩摩琵琶1面を八戸市に寄贈した。石田さんは尻内町の生まれで、琵琶専門店「石田琵琶店」（東京・虎ノ門）の三世・石田不識に師事し、1970年に四世・石田不識の雅号を継承した。同店で琵琶の制作や修理に従事し、2003年には文化庁長官表彰を受けた。2011年には八戸特派大使に任命された。今回贈呈した琵琶は、石田さんが5～6年かけて制作したもので、正倉院に収蔵されている「螺鈿紫檀（らでんしたん）五絃琵琶」を模したデザインで、貝の装飾の螺鈿やべっ甲を使用している。寄贈した薩摩琵琶は、市庁本館1階ホールに展示されている。

【文化・スポーツ】

記事	概要
（１８）	**男子新体操部出身者で構成「BLUE TOKYO」　八戸初公演で圧巻の演技** 青森山田高や青森大の男子新体操部出身者で構成するプロパフォーマンスユニット「BLUE TOKYO（ブルートウキョウ）」による公演「BLUE冬大祭」が2月9日、八戸市公会堂で開かれた。青森市では毎年舞台を行っているが、八戸市での公演は初めて。「エンターテイメントで青森を結びたい」をテーマに2部構成で行われた。1部は、同市を拠点とするバトンチーム「Aries（アリエス）」、市立白銀中と階上町立道仏中の男子新体操部による演技を披露。2部はBLUE TOKYOがメインで、八戸三社大祭や蕪島などの映像を背景に、ダンスと新体操を融合させた圧巻のパフォーマンスを披露し、大勢の観客を楽しませた。
（１９）	**総合格闘技「パンクラス」　“八戸発”プロ格闘家デビュー** 総合格闘技団体「パンクラス」で、八戸市の上野惇平選手(27)＝ハイブリッドレスリング八戸所属＝が昨年12月にプロデビューを果たした。初戦は惜しくも判定で敗れたものの、パンクラスの聖地である東京の新木場スタジオコーストで声援とスポットライトを浴び、プロとして確かな一歩を刻んだ。初勝利を目指す次戦は3月17日。新人王戦に当たる「ネオブラッド・トーナメント」のバンタム級1回戦。「とにかく一本勝ちかKO勝ちで決めたい」とプロ初勝利へ闘志を燃やす。日々の仕事と格闘技を両立させながら、“八戸発”のプロ格闘家が果敢な挑戦を続けている。
（２０）	**北国に春を呼ぶ「八戸えんぶり」　初日は過去最高の20万3千人** 北国に春を呼ぶ、八戸地方を代表する伝統行事「八戸えんぶり」は2月20日、4日間の全日程を終えた。期間中の入り込み数は30万6千人で、昨年を1万3千人上回った。今年は日曜日となった初日が昨年を大きく上回り、2001年の統計開始以降、過去最高の20万3千人を記録。市中心街で行われた一斉摺りには多くの市民や観光客が詰め掛けた。最終日に市庁前市民広場で開かれた一般公演では、大久保、重地の両えんぶり組が登場。観客は各演目の解説に耳を傾けながら、約800年続く伝統芸能を堪能していた。
（２１）	**長根リンク 半世紀の歴史に幕　～思い出 七色の銀盤に～** 2月末で半世紀の歴史に幕を下ろす長根リンクで2月24日、市主催の「クロージングイベント」が行われた。イベントには長野五輪スピードスケート競技メダリストの清水宏保さんと岡崎朋美さんがゲスト出演。長根の歴史を、建設中の市立屋内スケート場へ引き継ぐーという趣旨で行われた聖火リレーでは、清水さん、岡崎さんと、アイスホッケーの東北フリーブレイズの選手らが、トーチを手にリンクを回った。リンクも無料開放され、色とりどりのイルミネーションに彩られた銀盤で、約5千人の市民らが思い思いに最後の滑りを楽しんだ。